

「神が預けられた富の管理」

ヤコブ5：1～6

堀田修一 21・6・27

先行的恵み：神がまず大切なひとり子を与えられた大きな愛、主イエスの十字架の恵みを感謝します！

I 金持ち（地位が高く富んでいるのに貧しい人々を助けない人々）達へ。

1. 「金持ちたちよ、よく聞きなさい。迫りくる自分たち（労働者に賃金を払わず、富を腐るほど持っている人々）の不幸（神の正しいさばきの厳粛さ）を思って、泣き叫びなさい」：1。
2. 「あなたがたの富は腐り（神から与えられた富を蓄えるだけで、正しく捧げたり、用いないと腐る、心も腐る※分けないで一人で食べる予定が？）、あなたがたの衣は虫に食われ、あなたがたの金銀はさびています（神から預けられているものを正しく捧げたり、用いたり、必要としている人々に与えないと、虫に食われたり、さびが来て無駄になる。心も霊的な虫に食われ、さびが来る）、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします（世の終わりに神の正しいさばきがある）。あなたがたは、終わりの日（主が再臨され、神が預けられた財を神と人々の為に用いたかをさばかれる終わりの日）に財を蓄えたのです」：2～3。神が私たち人間に財や宝を預けられるのは、貪欲に貯め込むためではなく、神に感謝し捧げ、家族の為、貧しい人々の為に用いる為である事を覚えてほしい。
3. 「見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。刈り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています」：4→貪欲な人々は、労働者に賃金を払っていなかった。不当な扱いを受けている人々の「叫び声は、万軍の主の耳に届いています」。万軍の主は、主の時に正しくさばかれます。※現在、コロナ禍の中で、感染防止の為忠実にお店を閉じている方の「国からの補助金が届きません」、貧しい方々の「助けて下さい」という叫び声が聞こえて来ます。休業を命

じる政治家にはこの声が届きますように。政治家の皆さんは、年収は、何千万であり、夏と冬のボーナスは何百万円である。それに比べ、なぜ、コロナの中で懸命に働いて下さっている看護師の方々のボーナスがカットされるのでしょうか。地位が高く富んでいる方々が、貧しく、苦しく、自殺を考えている人々の気持ちに寄り添い、援助の手を伸べて下さいますように。国会を閉じる事無く、今こそ、困っている人の「助けて下さいという叫び」を聞かれ、援助が届くように国会で決め、早急に行動され、緊急事態に合わせ、緊急な援助が、速やかに行き渡るように。裕福な政治家の皆さんが、今こそ、自分たちの報酬を削って、支援金を集め、生きるか死ぬかの困っている方々に、援助して下さいれば、国民の政治不信も、少しは和らげられるかもしれない。「高い地位にある…人のために」祈ります I テモ 2 : 1。

4. 「あなたがたは地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、屠られる日のために自分の心を太らせました」：5→貪欲な人々は、神から預けられている物を神に捧げず、人々に分け与えず、自分の為だけに贅沢に暮らし、快樂にふけり、殺される日（神の審判の日）にあたって自分の心を太らせました。殺される日が迫っている動物がなお貪欲に食べて太っているように、彼らも神の審判の日が近づいていることに全く無関心で、罪に罪を重ねて滅びを確実なものにしています。私達も主の再臨を思い歩みたい。
5. 「あなたがたは、正しい人を不義に定めて殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません」：6→貪欲な人々は、富の力で法廷をも支配し「正しい人を不義に定めて殺しました」。これまでの歴史も、現在もこの不当な殺人が行われています。現在、C国、H国、M国、R国他独裁的支配者の国々では、正しい人々が殺されています。貧しい人々が、パンを買うための賃金を不当にも与えなかった。そういう意味で正しい労働者を殺した。「彼はあなたがたに抵抗しません」→「自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする』と主は言われる』（ローマ 12 : 19)。神からの人権の為に暴力的でないデモをする事は正しい。

Ⅱ 世界で最も富んでおられた主が私たちの為にされた事→クリスマスと十字架の恵み「主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました（最高の位の神であられたのに、へりくだり、人となり、赤ちゃんとなり、貧しくなり、家畜小屋に生まれ、富んだ生活をなさらず、最後は最も低い十字架

にまでへりくだり、私達の罪の為に死んで下さり救いという富を下さった)。心から感謝します。

Ⅲ コリント8：9。私たちの為に貧しくなられた主は、こう言われました→「自分のために、天に宝を蓄えなさい」マタイ6：20。

1. 宝とは、金銭、物、名誉、地位、他すべてを含む。所有物よりも、所有物に対する私たちの態度が問題。心が執着しているものが宝。自分の満足、関心、希望がこの世のものに縛られているか？それとも主によって心が満たされているか。

2. 地上に「蓄える」とは→富そのものを目的とし、貯め込む為に生きる事。神の栄光ではなく、自分の地位、名誉の為に生きる事。

3. 自分の宝を天に蓄えるとは→①すべては神から与えられていることを認め、神のものである十分の一を神にささげる。マラキ3：10。②真に必要なとされるところに「惜しまずに施し、喜んで分け与えるように」Ⅰテモテ6：18。③人生について正しい見方を持つ。「私は、旅人としてこの世を、神の御目のもとで、神に導かれつつ永遠の望みを目指して歩いている」。ヘブル11章の信仰の勇者たちは「地上では旅人であり、寄留者であることを告白していた」11：13。神は、エジプトの宮廷で前途洋々としていたモーセに、すべてを捨てて40年に渡るみじめな羊飼いの生活をするように導かれた。モーセは従ったがそれは神が「報いとして与えられるものから目を離さなかった…目に見えない方を見るように忍び通したからです」11：26, 27。④地上で自分に与えられているものは、神の為に用いるように神が私たちに預けられているものという正しい見方を持つ。私達は、神に委ねられたものについて報告の義務を負う管理人。マタ25：19→預かったものをどう用いたか報告する清算の時がやって来る。私達の金銭、財産、能力、自分も自分のものではない。真の所有者は、すべての造り主の神（ヨブ41：11、Ⅰコリ6：19）。それゆえ、私は、富を賜物を自分のものにしてしまうことはできない。私はこれらの保管者に過ぎない。私は、これらを神の為に使っているか。私は、神にお会いする、神の御前に出る日が1日1日近づいている。神が私の永遠の審判者であり父である。神が私を祝福し与えて下さったすべてのものについて報告書を提出する日が近づいている。私は、

1日毎に自分の移動テントを1日の行程分だけ、真の家（天国）に近づきつつ張っている。私は父なる神に愛されている子どもとして、私自身の為ではなく、御父の御目的の為に今、この地上に置かれている。私は自分でこの世に生まれる事を選んだのではない。私がここにいるのには、目的がある。神が私にこの世に生きるという特権を与えて下さった。すべてのものは、神が所有者であり私は管理人としてそれらを神の為に用いる者と自覚させられる時、私はこれらに執着したり支配されたりせず、御心を祈りつつ用い歩む。「主のみこころであれば、私は生きて、このこと、あるいは、あのことをしよう」ヤコ4：15。誤った活動主義（御心を祈らず、はやるあせり、義務感、衝動）に自分を追いやってはいけない。それではいつか倒れる。主は、やるべき時と休むべき時と両方を与える方。あせらず、神の前に静まり、神が喜ばれる事を見分けつつ主と共に1日1日一足一足歩めますように。富ではなく神に仕えよう。神は正しく報いてくださる。